



正体不明の馬乗りナイフエッジ尾根

## 越後三山 八海山・外コダツ沢左稜 (仮称)

佐貫

【日時】 2007年3月3日(土)～4日(日)

【メンバー】 佐貫(L)、棚橋

前回の屏風尾根の計画では、2日目にロープを出して急な雪壁を登りきったところで、稜線まで標高差200m程度を残し急に尾根が終わってしまった。寡雪にもかかわらず、途中で見えるはずの清滝小屋や鐘が何一つ見当たらなかったこともあり、方向は確かに地形図と合っているがやはりここは屏風尾根ではなかったのではないか？という疑問を抱きつつその地点から引き返した。今回はその疑問を解決すべく、再トライを決めた。

二合目まではすぐに着き、あわよくば夏道が出ているのではないかと期待しながら屏風沢を徒渉するも、道形らしきものはすぐに分からなくなってしまった。同じようなルートを通り前回登った尾根が見えるところまでは一時間少々で到着。前回登ったのは屏風尾根ではないという仮定に基づき、偵察の末小さな尾根を二つ挟んだ手前の尾根を登ることにした。

最初は斜度が緩く、木立がなくなってくるあたりから急な斜面となっているのが分かる。そのまま登っていくと先に見える急な岩混じりの斜面との間にギャップがありそうだったので途中でデブリの出ている小ルンゼを横切り、一本奥の尾根に移るが、更に登ってみると最初のラインでも問題なく行けたようだ。岩が出ている急斜面は、「チョイ藪」「半藪」というレベルではなく、雪が全くついていない「全藪」だ。30分弱の藪漕ぎの後、再び雪が現れアイゼンを履く。ここからはしばらくすっきりとした尾根が続き、左手にはかつて登ったことのある生金沢左稜がよく見える。この時点で「屏風尾根にしては生金沢左稜が近すぎるし、方向もおかしい」とは思ったが、下りて登り直すよりもこの明瞭な尾根を登ってみたい気持ちが勝ってそのまま行動継続。

気温が高く、グサグサとよくもぐるので結構消耗する。そのうち尾根の途中に大きなタラコのような形の岩が出現し、それを巻いて進んだりするうちに前方にはやけに急な藪混じりの雪壁が見えてきた。遠目に見ると登れるかどうか怪しいと思ったが、ガチャとロープを取り出して近づいて見るとさほどでもなさそうだ。基部まで上がって棚橋リードで1P目、灌木でランニングを取ってからグズグズの雪壁をちょっと上がってピッチを切る(45m)。ツルベで佐貫が上がった2P目は急だが大して悪くはない(30m)。ビレイ地点がなく短めに切った。3P目は下りの極細ナイフエッジ(50m)。「富嶽三十六景」の波の如く右側に雪庇となって傾いている。立つ

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>



ことも出来ず馬乗りで棚橋リード、左足はかろうじて雪の上だが右足は空中でブラブラだ。落ちるなら左側に落ちてくれ、でも本当に落ちるとしたらきっと右側だろうと思いつながらビレイ、迫力あるシーンだが写真も撮れない。4P目は佐貫がタマゴタケのような形の雪壁を斜上し、続くグサグサの急斜面を上がる(50m)。1364mがすぐ近くに見える。左手から尾根を合わせるともうザイルは不要だ。1364mで小休止し、屏風尾根との合流点らしきところではどのように尾根がつながっているのかを目を凝らして探したが分からず終い。アイゼンダンゴと腰痛でヨレヨレになって17時過ぎ、千本檜小屋に到着した。

夜半からやや風が強かったが特に天候悪化はなく、翌朝は生暖かい風に当たりながら薬師岳へ。銅像の頭だけが出ていた。マキグラノツルネは真っ黒、オツルミズにも盛大に水が流れていそうな感じである。女人堂の小屋から少し下りたあたりでワカンに履き替えた。池ノ峰との間の鞍部を2ヶ月半ぶりに歩く。ここを通るたびに、2月とは思えない暖かい陽気に皆でコンデンスミルクや抹茶味のかき氷を食べながら休憩したかつての会山行のこと、その時一緒に笑っていた長汐君のことを思い出す。いまだにナイフエッジにしがみついているのだよ、と言ったら彼は笑うだろうか。2時間ほどで八海山スキー場のゲレンデトップに着き、ロープウェイで下山した。

行動中は、尾根の位置関係からして「これは生金尾根ではないか」と思っていたのだが、帰宅後に調べて見るとわらじの大津氏の記録とは様子が違うようだ。その上、生金尾根がどこを指すのかが資料によって微妙に異なり、1364mの手前で生金沢左稜に合流するのかそれよりも屏風道との合流点寄り尾根を合わせるのかも判明しない。確実なのは前回の尾根が正しい屏風尾根で、恐らくロープを出したところでルートを外したものと思われるということだけだ。「集成図」で「下コダツ沢」とある沢の右岸尾根が今回登った尾根であろう。正確な名称がわからないのでとりあえず下コダツ沢左稜とするが、最初から最後まで明瞭な尾根が踏み替えもなく続き、名前があってもおかしくないような感じだった。ただの無名尾根だったのだろうか？ナイフエッジ嫌いの人には向かないが、無名尾根にしてはかなり面白いルートのように思う。

八海山は近くて良い山、今年宿題になってしまった屏風尾根を含めまだいくつものバリエーションがある。これからも一つずつ赤線を引いていきたいと思う。それと読図力の向上が重要課題であることを痛感した。色々考えることの多い山行となった。

【行程】 3/3 八海山パークホテル (7:00) ~ 尾根取付 (9:50) ~ 千本檜小屋 (17:30)

3/4 出発 (6:40) ~ 薬師岳 (7:05) ~ 八海山スキー場下 (9:10)

【地形図】 五日町、八海山